

研修通信



R6.9

7月30日(火)、広島都市学園大学 教授 竹林地毅先生をお招きして、夏季公開講座を実施しました。他校からもたくさんの方に参加していただきました。その様子をお伝えします。

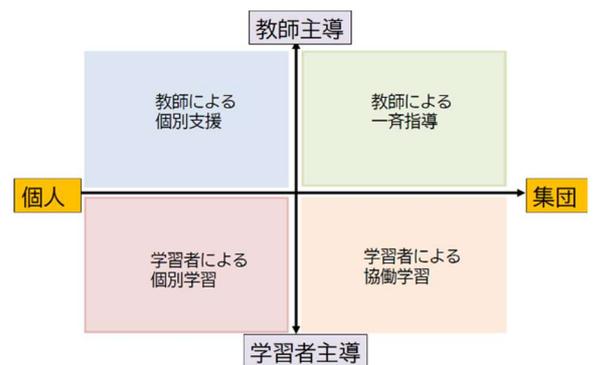
テーマ 知的障がいのある児童生徒の主体的な学び
— 学びを実感する単元・授業づくり —

育てたい児童生徒と資質・能力

○児童生徒が主体的に学ぶ授業

授業の流れ	教師主導型	子ども中心型
目標・主題 計画 学習過程 ア 方向づけ イ 子どもへの援助 ウ 子どもの失敗 評価	教師が一方的に与える 教師が立案する 指示する すぐに手助けをする 指摘し直させる 教師が評価する	子どもから引き出す 子どもに立案させる 想起させる 独力ですよう激励する 気づかせ、ヒントを与える 子どもと相互評価する

出典:田口則良(1994)精神遅滞児の認知的動機づけに基づく指導法の研究.北大路書房



出展 中山芳一(2023)教師のための「非認知能力」の育て方.明治図書出版

・教師主導型に偏ってはいないか？

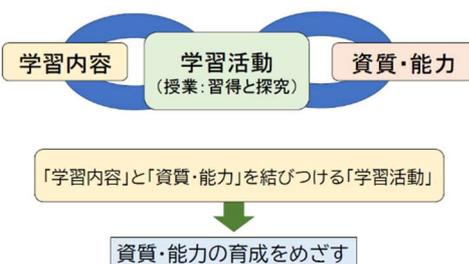


・単元を俯瞰して計画を考え、教師主導と学習者主導を意図的に使い分ける必要がある。

○育成する非認知能力

非認知能力

自制心、忍耐力、意欲、楽観性、コミュニケーション力、協調性等、客観的な点数(数値)にできないもの



主体的な学習活動を通して

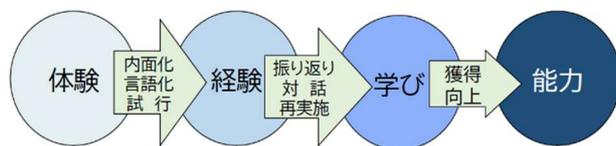
非認知能力が育っていく場面が多

くある。

学びを実感する単元・授業づくりの工夫



振り返りをとおして体験を経験に変え、学びにつなげていく。



出典 中山芳一(2018) 非認知能力が子どもを伸ばす. 明治図書出版



児童生徒にとって必要性・必然性のある学習活動を取り入れる。

例) 収穫したさつまいもを使った調理実習



学んだことを生かした貢献活動を通して自己有用感を育む。

自己有用感

人の役に立った、人から感謝された、人から認められた、という自分と他者（集団や社会）との関係を自他共に肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価

例) 地域の幼稚園等への貢献活動

自分たちで作ったものを寄付するだけでなく、実際に子どもたちの目の前で作る。

→より役に立ったという実感を得られる！

今の力を発揮した挑戦のある学校生活・授業にしていく。